

伊与田 文吾

戦死年不詳・辰役戦死〈殉難〉

伊与田 平太郎

秋起海行〈明3・南部〉

伊与田(伊与太) 政之進

安政5年8月1日生・明治7年2月24日警視庁四等巡查・9年9月8日福島県四等巡查・10年2月28日福島県二等巡查・10年6月20日警視庁二等巡查、警部補心得(西南役出張)・13年10月18日福島県十等警部〈明士〉鹿兒島行政警察・警視局二等巡查(河辺郡宮古村)〈西南〉長命寺戦死墓施主(11年4月建之)〈追悼〉14年6月～12月福島県十等警部・15年2月～6月福島県九等警部・15年7月福島県警部補〈改官〉

伊与田 政之進・母

明治5年9月4日死・㊦ 清楽院秋月妙光大姉・七崎普賢院過去帳〈五戸〉

伊与田 又蔵

㊦ 6石2人・青龍足輕三番蟻川隊・明治元年6月12日磐城白河大原村(米村山中とも)で戦死・40歳〈殉難・戦亡〉

伊与田 安三郎

源吾^ニ叔父・青龍士中三番木本隊・明治元年6月14日越後大黒で戦死・46歳〈殉難・結草・戦亡・若松〉

伊与田 安太夫

㊦ 130石・桂林寺通り住〈安人〉

伊与 田 安太郎

戦死年不詳・辰役戦死〈殉難〉

伊与田 勇治(勇次)

㊦ 3石8斗2人・加須屋左近^ニ組与力(慶人)東京にて謹慎〈渋谷見・東京〉明治5年「若松活計望名籍」伊与田勇治・54歳、父久治郎72歳・母とよ64歳・長男久吉^ニ24歳〈青ア〉6年岩代国への転籍願・家族4人〈青ア〉

伊与田 勇治・妻

明治元年8月29日若松で死〈殉難〉中弾・年齢不詳〈十九・戦史〉

伊与田 勇太郎

㊦ 400石・物頭・桂林寺通り住〈安人〉

入江 七郎

入江庄兵衛^ニ二男 → 梶原長八郎^ニ

入江 久太郎

明治元年閏4月27日越後小出島で負傷〈若草・若松〉

入江 十

府下滝ノ川村・会社員〈名録〉

入江 庄三郎

㊦ 100石・内小田垣二番丁西住〈安人〉

入江 庄兵衛

明治元年8月22日赤井小坂方出張・粮奉行・糧食を諸隊に供給〈若草・戦史〉㊦ 130石・郡奉行・表用人打込・進撃小室隊組頭表用人席・明治元年8月23日若松天神口で戦死・53歳〈殉難・戦亡・戦争・戦史・若草〉

入江 庄兵衛

小田付局・下岩崎村・11人〈扶助〉秋起海行〈明3・南部〉

入江 新六郎

安政5年(1858)3月26日～昭和11年(1936)10月22日。会津藩士入江庄兵衛^ニの長男。明治14年、白河・天童・高田藩士とともに滑津・吉子川両村にまたがる背戸原に入植した。そば・大豆など雑穀をつくって生活したが、入植した11名のうち残る者、入江ほか数人となる。窮乏に耐えて開墾し桑や針葉樹などの苗木をつくり、新しく移住者を募って養成し県下有数の種苗地となった。大正3年、滑津村長・水野谷徳次郎とともに発起人となって、滑津・吉子川・関平の3か村連合の耕地整理組合をつくり、困難辛苦して今日の美田に仕上げた。帝国耕地協合理事、県耕地協会副会長等歴任。中島村中学校に頌徳碑がある。㊦『福島県史』『明治百年の人びと』(県史) 23年福島県西白河郡書記・判任官九等・福島県士族〈福職〉西白河郡・農〈名録〉

入江 惣助

㊦ 100石・内小田垣二番丁住〈末図〉㊦ 130石・山奉行・人参方主役〈家来・近習〉㊦